

江古田小校長室便り 「温故創新」

H29 (2017)・0529 NO9

校長 伊波喜一

子の未来 誰もが学ぶ 機会持ち 一人ひとりの 生き方深めん

社会が用意する養育環境を「社会的養護」と言います。国内で社会的養護のもとで過ごす子どもは、約4万5000人にのぼると言われています。子どもが保護者と一緒に暮らせない理由は、この20年間で大きく変わりました。かつては保護者との死別や離婚等が原因でしたが、現在では家庭内暴力（DV）や家庭内貧困が目立ってきています。天然資源の乏しい日本では、人的資源＝人財です。言うまでもなく、人財育成の要は教育の充実を差し置いてはありません。その上からも、家庭内貧困の克服は日本の将来を期するものと言えます。国の方では現行の6・3制義務教育授業料免除を高校まで延長して、12年間授業料を免除することを提案しています。今や高校進学率は90%を越えます。これが実現すると、子ども達に教育の門戸を大きく広げることになります。明治以来148年にして、日本の教育もここまで裾野が広がってきました。ここからが肝心。学びの質をどう深め・高めていくか、教育の枠組みとその内容と精選を考えていく必要があるのではないのでしょうか。